

青木直人



China Newsletter

チャイナ・ウォッチャー青木直人のインテリジェンス・レター

今後数十年にわたって、日本の将来図が決定されてしまうことになりかねない事態が到来している今、青木直人が自前のメディアを持つ。誰にも邪魔されることなく大手メディアに対抗してより深い分析と、インサイドな情報を毎週、レポートします。

「ニュースレターチャイナ」の発信は活字のニュースレターと動画の2本で構成されます。それぞれ月に2回、1年でそれぞれ24本、合計48本となります。但し大きな事件が発生した場合は、緊急配信を行うことにします。

こんなことを書いてきました。

「30年間にわたり、対決してきた中国とソ連の関係改善のための首脳会談は来年（1989年）前半までに実現するだろう」（会談は89年5月に実現しました。記事は米国大使館のインテリジェンスから注目され、中国の某政府機関の関係者からも「なぜ、あんな重要外交機密がわかったのか」と感嘆されたのですが、肝心の日本の外務省はこの予想を鼻で笑っておりました）

「田中角栄の中国正常化の狙いは国際メジャーが手をつけていなかった中国に眠る資源の確保にあった。また毛沢東は田中に対して対米対中同盟提案を行ったが、この事実はいまだに日本側からも中国側からも、公にはされていない」（田中角栄に関するさまざまな著作やレポートに、ここからの「パクリ」が目立つように）

「米国と中国は経済的相互依存関係をベースに、アジアにおいて対決を避けようと、台湾の独立に反対し、北朝鮮の金政権の跳ね上がりを封じ込めようとしている。米中「安保」体制が日米安保と平行して機能し始めた」（講演に内外の情報機関の関係者が必ず参加するようになりました）

青木直人 経歴

中央大学卒業後、民間シンクタンクで中国動向を分析し、フリーランスとなる。1987年に、大韓航空機事件の犯人金賢姫のマカオアジトを取材し、韓国最大の日刊紙「朝鮮日報」に全文掲載される。1988年には、中国社会科学院のソ連東欧研究所を取材。その翌年は、中ソ首脳会談が実現すると世界に先駆けて予想した。またアナリストとしても経済産業省高官向けに限定配布の内部レポートを執筆、作成。主に中国台湾朝鮮半島の動向分析を担当。中国、朝鮮半島、東アジアの政治、経済動向に精通した知識をもとに、20冊近い著作（共著も含む）を出版している。

ニュースレター・チャイナ
<http://aoki.trycomp.com/NL/>

個人 半年 15,000 円

1年 30,000 円